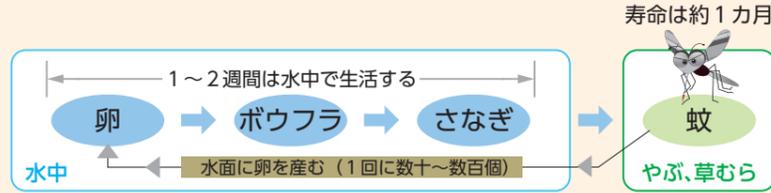


# 蚊の習性を知って 身を守ろう

## ～蚊のライフサイクル～



蚊はメスだけが吸血します。メスは水際や水面に卵を産み、卵がふ化すると「ボウフラ」（蚊の幼虫）になります。「ボウフラ」は、やがて「さなぎ」になり、「さなぎ」が羽化して蚊になります。メスの蚊は3日ほどで吸血をはじめ、寿命は約1カ月です。

## ～蚊に刺されない～

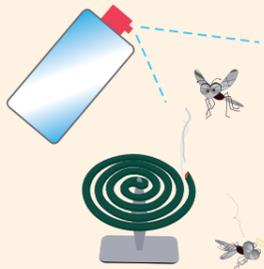
- やぶなどの蚊がいそうな場所に行くときは、肌を露出せず、虫除けスプレーを使用するなど、蚊に刺されないように注意しましょう！
- 海外へ渡航する際は、渡航前に現地での流行状況を確認しましょう！
- デング熱やジカウイルス感染症の流行地に渡航する場合は、現地で蚊に刺されないように注意しましょう！

## 露出の多い服装



出かけるときは長袖・長ズボンなどを着用し、肌の露出を少なくしましょう

虫除け剤を効果的に使いましょう



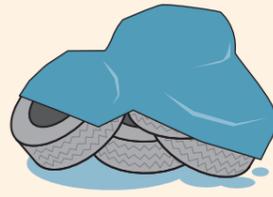
国内において、蚊は気温25℃前後で活発に活動するといわれています。海外渡航時はもちろん、国内でも蚊に刺されない対策をして危険な感染症から身を守りましょう。感染症対策について、詳しくは厚生労働省ホームページ (<https://www.mhlw.go.jp/index.html>) をご覧ください。

保健総務課 ☎973-7531

## ～蚊をできるだけ発生させない～

- 蚊の発生を減らすために、ボウフラが発生しそうな身の周りの水たまりを定期的に除去・清掃をしましょう！
- 下草を刈るなど、蚊が潜む場所を無くしましょう！

## 水たまり除去・清掃



わずかな水たまりでもボウフラが発生！



蚊が好む場所を無くそう！

## 下草刈り



# 身近に潜む脅威 感染症の原因を運ぶ蚊に注意しよう

感染症の中には、私たちの身近に生息する蚊を媒介にして広がるものがあります。ウイルス疾患の代表的なものにデング熱やジカウイルス感染症（ジカ熱）などがあるほか、原虫疾患のマラリアなども蚊を媒介とする感染症です。いずれも決定的な治療法のない、とても恐ろしい病気です。

今号では、蚊が媒介する病気を未然に防ぐため、感染経路である蚊から身を守り、蚊の発生源を絶つ方法を紹介いたします。

## なぜ怖い？

### 蚊が媒介する日本で発生した感染症

#### デング熱

〔症状〕 急激な発熱で発症し、発疹、頭痛、骨関節痛、おう吐などの症状があります。通常、発症後2日～7日で解熱し、発疹が解熱時期に出現します。まれに重症化してデング出血熱やデングショック症候群を発症し、死に至ることがあります

〔治療方法〕 ワクチンや治療薬がないため、発症した場合は水分補給や解熱剤の投与などの対症療法が中心になります

#### 日本脳炎

〔症状など〕 感染しても症状が現れずに経過する場合があります。数日間の高熱、頭痛、おう吐などが現れ、引き続き意識障害、けいれんなどの脳の障害を生じます。発症した場合、20%～40%が亡くなるといわれています。ただし、ワクチンを接種することで、罹患リスクを75%～95%減らすことができますといわれています

#### ジカウイルス感染症（ジカ熱）

〔症状〕 感染しても症状がないか、症状が軽いため気づきにくいことがあります。しかし近年、妊婦が感染すると母体から胎児への感染を起こすことがあり、胎児が小頭症などの先天性障害を起こす可能性があるといわれています

〔流行地〕 主な流行地は、熱帯や亜熱帯の全域で、東南アジア・南アジア・中南米で患者の報告が多くなっており、日本に最も近い流行地は台湾です

〔日本の感染〕 日本では海外渡航者の感染が毎年2000人ほど確認されていますが、平成

〔治療方法〕 ワクチンや治療薬がないため、発症した場合は水分補給や解熱剤の投与などの対症療法が中心になります

〔治療方法〕 デング熱同様、ワクチンや治療薬がないため、発症した場合は対症療法となります

## 市の感染症対策

これまでも、国内には常在しないウイルスや細菌などの病原体が海外渡航者、輸入食材等によって国内に持ち込まれたことで発生する感染症（輸入感染症）がありました。日本はこれから、ラグビーワールドカップ2019日本大会のほか、来年には東京オリンピック・パラリンピックといった国際的なイベントの開催を控えています。今以上に世界中の国や地域からたくさんの方が日本を訪れ、多くの

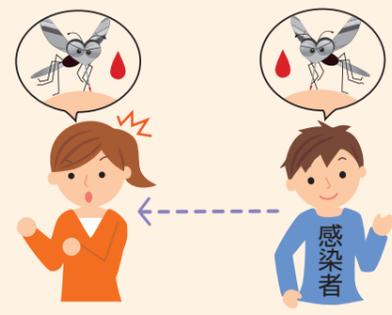
人が集まる機会が増えることから、さまざまな感染症の発生リスクが増加することが懸念されています。

越谷市保健所では、市内の指定医療機関や医師等から感染症の発生について報告を受け、市内の感染症の流行状況を把握しています。

感染症の流行拡大の兆しがある場合には、随時、市ホームページや越谷cityメール、広報こしがやなどを通じて、正しい知識と予防策などの情報を発信できるように努めています。

## どんな蚊が感染症を運ぶ？

日本には約100種類の蚊が存在しますが、その中でも、雑木林や竹林、やぶなどで見られるヒトスジシマカが、デング熱やジカウイルス感染症の原因となるウイルスを運びます。



ヒトスジシマカの特徴 背中1本の白い線がある3ミリ～5ミリほどの蚊で、5月中旬～10月下旬に活動します。日中に50℃～100℃の範囲で活発に活動します

ウイルスは、感染した人の血を吸った蚊の体内で増え、その蚊がほかの人の血を吸うときにウイルスがうつり、感染が拡大します。